

分子医療部門 分子治療学研究分野（原研内科）

A 欧 文

A-a

1. Dewan MZ, Uchihara J, Terashima K, Honda M, Sata T, Ito M, Fujii N, Uozumi K, Tsukasaki K, Tomonaga M, Kubuki Y, Okayama A, Toi M, Mori N, Yamamoto N : Efficient intervention of growth and infiltration of primary adult T-cell leukemia cells by an HIV protease inhibitor, ritonavir. *Blood* 107(2): 716-724, 2006(IF: 10.370) *
2. Hasegawa H, Yamada Y, Komiyama K, Hayashi M, Ishibashi M, Yoshida T, Sakai T, Koyano T, Kam T, Murata K, Sugahara K, Tsuruda K, Akamatsu N, Tsukasaki K, Masuda M, Takasu N, Kamihira S : Dihydroflavonol BB-1, an extract of natural plant *Blumea balsamifera*, abrogates TRAIL resistance in leukemia cells. *Blood* 107(2): 679-688, 2006(IF: 10.370) *
3. Inoue Y, Tsushima H, Ando K, Sawayama Y, Sakai M, Yamasaki R, Matsuo E, Tsutsumi C, Imaizumi Y, Iwanaga M, Imanishi D, Taguchi J, Miyazaki Y, Tomonaga M: Chemokine expression in human erythroid leukemia cell line AS-E2 : macrophage inflammatory protein-3 α /CCL20 is induced by inflammatory cytokines. *Exp Hematol* 34(1): 19-26, 2006(IF: 3.408) *○
4. Yanada M, Takeuchi J, Sugiura I, Akiyama H, Usui N, Yagasaki F, Kobayashi T, Ueda Y, Takeuchi M, Miyawaki S, Maruta A, Emi N, Miyazaki Y, Ohtake S, Jinnai I, Matsuo K, Naoe T, Ohno R: High Complete Remission Rate and Promising Outcome by Combination of Imatinib and Chemotherapy for Newly Diagnosed BCR-ABL-Positive Acute Lymphoblastic Leukemia: A Phase II Study by the Japan Adult Leukemia Study Group. *J Clin Oncol* 24(3): 460-406, 2006(IF: 13.598) *
5. Tsukasaki K, Lohr D, Sugahara K, Kamihira S, Tomonaga M, Bartram CR, Jauch A: Comparative genomic hybridization analysis of Japanese B-cell chronic lymphocytic leukemia: correlation with clinical course. *Leuk Lymphoma* 47(2): 261-266, 2006(IF: 1.559) *
6. Tawara M, Hogerzeil SJ, Yamada Y, Takasaki Y, Soda H, Hasegawa H, Murata K, Ikeda S, Imaizumi Y, Sugahara K, Tsuruda K, Tsukasaki K, Tomonaga M, Hirakata Y, Kamihira S: Impact of p53 aberration on the progression of Adult T-cell Leukemia/ Lymphoma. *Cancer Lett* 234(2): 249-55, 2006(IF: 3.277) *
7. Taguchi J, Miyazaki Y, Tsutsumi C, Sawayama Y, Ando K, Tsushima H, Fukushima T, Hata T, Yoshida S, Kuriyama K, Honda S, Jinnai I, Mano H, Tomonaga M: Expression of the myeloperoxidase gene in AC133 positive leukemia cells relates to the prognosis of acute myeloid leukemia. *Leuk Res* 30(9): 1105-1112, 2006(IF: 2.483) *○
8. Harasawa H, Yamada Y, Hieshima K, Jin Z, Nakayama T, Yoshie O, Shimizu K, Hasegawa H, Hayashi T, Imaizumi Y, Ikeda S, Soda H, Atogami S, Takasaki Y, Tsukasaki K, Tomonaga M, Murata K, Sugahara K, Tsuruda K, & Kamihira S: Survey of chemokine receptor expression reveals frequent co-expression of skin-homing CCR4 and CCR10 in adult T-cell leukemia/ lymphoma. *Leuk Lymphoma* 47(10): 2163-2173, 2006(IF: 1.559) *

B 邦 文

B-a

1. 横田賢一, 三根真理子, 近藤久義, 本田純久, 朝長万左男, 田川真須子, 柴田義貞: 一般演題1. 長崎原爆被爆者の健診受診行動. *広島医学* 59 (4): 315-317, 2006
2. 尾坂明美, 鶴田一人, 上村明希子, 濱崎典子, 本村裕実子, 山本梨恵, 菅原和行, 山田恭暉, 吉岡 朗, 長井一浩, 岩永正子, 朝長万左男, 上平 憲: HLA-DR陰性の急性骨髄性白血病における cup-like nuclear morphology の特性. *日本検査血液学会雑誌* 7 (2): 256-263, 2006
3. 朝長万左男, 松丸一朗, 江石清行, 長井一浩: 自家骨髄細胞による末梢血管再生医療の開発研究. *放射線科学* 49(7): 222-224, 2006
4. 松丸一朗, 江石清行, 山近史郎, 山口博一郎, 多田誠一, 山根健太郎, 泉 賢太, 高井秀明, 谷川和好, 小野原大介, 長井一浩, 上平 憲, 宮崎泰司, 福島卓也, 朝長万左男: 自家骨髄単核球細胞移植を施行した Buerger 病の 2 例—当院に於ける再建不可能な虚血下肢への血管新生療法(再生医療)導入の試み—. *長崎医学会雑誌*, 81 (3): 111-114, 2006
5. 岩永正子, Nader Ghotbi, 大津留 晶, 乗松奈々, 小川洋二, 上谷雅孝, 難波裕幸, 山下俊一: PET(PET/CT) 癌検診の妥当性と医療用放射線被曝の評価. *長崎大学医学会雑誌* 81(特集): 266-270, 2006
6. 大津留 晶, Nader Ghotbi, 岩永正子, 乗松奈々, 小川洋二, 上谷雅孝, 難波裕幸, 山下俊一: 小児 CT サーベイから見た医療用放射線被曝. *長崎大学医学会雑誌* 81(特集): 271-275, 2006
7. 薦田みのり, 藤本健志, 川口康久, 対馬秀樹, 福島卓也, 波多智子, 宮崎泰司, 塚崎邦弘, 朝長万左男: 急性型特発性血小板減少性紫斑病類似の臨床像を呈した三日熱マラリア. *臨床血液* 47(11): 1453-1456, 2006

B-b

1. 塚崎邦弘：【特集 造血器腫瘍の治療 up-date-Evidence に基づく治療戦略】成人T細胞白血病リンパ腫. 血液・腫瘍科 52(1): 72-78, 2006
2. 内山 卓, 朝長万左男, 大屋敷一馬, 三谷絹子, 通山 薫, 上田孝典, 大西一功, 小川誠司, 木村昭郎, 小澤敬也, 谷本光音, 中畑龍俊, 堀田知光, 村手 隆, 小峰光博：不応性貧血(骨髓異形成症候群)の診断基準と診療参照ガイド作成のためのワーキンググループ：不応性貧血(骨髓異形成症候群)診察の参照ガイド. 臨床血液 47(1): 47-68, 2006
3. 朝長万左男：【特集/白血病・MDSの分子病態から分子治療まで研究の最先端を探る】序文. 分子細胞治療 5(1): 1-2, 2006
4. 宮崎泰司：【特集/白血病・MDSの分子病態から分子治療まで研究の最先端を探る】MDSに対する新規分子標的薬開発の現状と問題点. 分子細胞治療 5(1): 53-59, 2006
5. 朝長万左男：特集/白血病・MDSの分子病態から分子治療まで研究の最先端を探る】文献紹介 白血病幹細胞とがん幹細胞研究の展開. 分子細胞治療 5(1): 92-93, 2006
6. 宮崎泰司：【身近な話題・世界の話】ETS関連遺伝子MEFの造血細胞における最近の話題. 血液フロンティア 16(3): 440-444, 2006
7. 塚崎邦弘：【特集 T細胞腫瘍とNK細胞腫瘍研究の最近の進展】JCOGによるATLL治療研究の総括と今後の課題. 血液・腫瘍科 52(2): 128-133, 2006
8. 福島卓也：【特集 T細胞腫瘍とNK細胞腫瘍研究の最近の進展】ATLLに対するconventional conditioningを用いた同種造血幹細胞移植の現状と課題. 血液・腫瘍科 52(2): 142-147, 2006
9. 朝長万左男：「血液病」のわかりやすい診断法1 貧血を中心に. 日本醫事新報 4267: 33-36, 2006
10. 塚崎邦弘：【造血器腫瘍の検査 検査と臨床の対話】臨床が求める検査情報—実際の活用と問題点—. 日本検査血液学会雑誌 7(1): 187-193, 2006
11. 宮崎泰司, 朝長万左男：【特集 難治性貧血 分子病態と治療戦略】骨髓異形成症候群に対する新規治療法. 最新医学 61(3): 406-412, 2006
12. 朝長万左男：「血液病」のわかりやすい診断法2 白血球異常から考える(前編). 日本醫事新報 4271: 33-36, 2006
13. 朝長万左男：「血液病」のわかりやすい診断法3 白血球異常から考える(後編). 日本醫事新報 4272: 33-36, 2006
14. 小峰光博, 金倉 譲, 西村純一, 木下タロウ, 井上徳光, 金丸昭久, 七島 勉, 中熊秀喜, 川口辰哉, 中尾眞二, 朝長万左男, 小島勢二, 寺村正尚, 二宮治彦, 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業特発性造血障害に関する調査研究班：発行性夜間ヘモグロビン尿症診療の参照ガイド. 臨床血液 47(3): 215-239, 2006
15. 朝長万左男：原子爆弾後障害研究の将来の展望—これからの10年間に期待される成果— 血液疾患のリスク—白血病・MDS・多発性骨髄腫—. 広島医学 59(4): 302-306, 2006
16. 松田 晃, 陣内逸郎, 岩永正子, 別所正美, 朝長万左男：【話題】不応性貧血の臨床的特徴に関する日独比較. 血液・腫瘍科 52(4): 428-434, 2006.
17. 波多智子, 朝長万左男：各種がんに対する薬物療法—血液がん 白血病の分子標的療法. 臨床と研究 83(5): 695-698, 2006.
18. 朝長万左男：半世紀を経てなお続く原爆の人体影響. 共済エグゼクティブ通信 18: 11-37, 2006
19. 波多智子：血液腫瘍の診断法 細胞形態学的診断. Medicina 43(7): 1079-1080, 2006.
20. 宮崎泰司：EBMの確立, 多施設臨床共同研究の現状 成人白血病: Japan Adult Leukemia Study Group研究の現状. 臨床血液 47(7): 579-86, 2006
21. 朝長万左男：特集・骨髓異形成症候群(MDS)の病態と治療の進歩 MDS: 研究と治療のターニングポイント 2006. 血液フロンティア 16(8): 1153-1156, 2006
22. 宮崎泰司：骨髓異形成症候群(MDS)の病態と治療の進歩 新規治療薬 Lenalidomide (Revlimid) と 5q- 染色体異常保有MDS. 血液フロンティア 16(8): 1191-1198, 2006
23. 朝長万左男：【特集 骨髓異形成症候群(MDS)：病態の解明と最新の診療】MDS—診断と分類・鑑別すべき病態. 血液・腫瘍科 53(2): 115-119, 2006
24. 栗山一孝, 波多智子, 宮崎泰司：AML / MDSの細胞形態学. 臨床血液 47(8): 701-709, 2006
25. 対馬秀樹, 朝長万左男：「2 検査項目 各論」骨髓像. 日本医師会雑誌 135特別号(2) 生涯教育シリーズ 70 最新臨床検査のABC S68-S70, 2006
26. 塚崎邦弘：成人T細胞白血病/リンパ腫(ATLL)における微小残存病変(MRD)検査法の臨床応用についての研究. Med Sci Digest 32(12): 546-549, 2006

B-c

1. 朝長万左男：骨髓異形成症候群(MDS). (浅野茂隆, 池田康夫, 内山 卓(監修)：三輪血液病学 第3版, (株)文光堂, 東京, pp. 925-943所収) 2006

2. 宮崎泰司, 朝長万左男: 第1章 概念・分類と疫学 概念と分類.(大野竜三(編):最新医学別冊:新しい診断と治療のABC36 急性白血病 血液4, 最新医学社, 大阪, pp. 9-19所収)2006
3. 塚崎邦弘: 第5章 治療ガイドライン ガイドライン.(大野竜三(編):最新医学別冊:新しい診断と治療のABC36 急性白血病 血液4, 最新医学社, 大阪, pp. 249-255所収)2006
4. 朝長万左男:【II. 染色体異常の臨床】1.[解説]WHO分類:造血・リンパ組織の腫瘍-疾患単位と染色体異常-. (朝長万左男編集:イラスト解説 WHO分類;造血・リンパ組織の腫瘍)染色体異常の基礎と臨床, 医薬ジャーナル社, 大阪, pp. 48-75所収)2006
5. 朝長万左男: 2. 血液疾患のリスク-白血病・MDS・多発性骨髄腫. ((財)広島原爆障害対策協議会編集:第46回原子爆弾後障害研究会講演集, 広島原爆障害対策協議会, 広島, pp. 10-14所収)2006
6. 塚崎邦弘: 50歳のATLLリンパ腫型, 血清カルシウム値が16mg/dlある. さてどうしよう? (押味和夫, 木崎昌弘編集:造血器腫瘍治療 これは困ったぞ, どうしよう!中外医学社, 東京, pp. 132-133所収)2006
7. 塚崎邦弘: 化学療法で寛解となったNHL. 腹腔内リンパ節が腫大してきてsIL-2Rも上昇してきた. 全麻下での生検をすべきか. (押味和夫, 木崎昌弘編集:造血器腫瘍治療 これは困ったぞ, どうしよう! 中外医学社, 東京, pp. 134-137所収)2006
8. 朝長万左男:【X I. 血液・造血器疾患】10・急性白血病. (金澤一郎, 北原光夫, 山口 徹, 小俣政男総編集:内科学, 医学書院, 東京, pp. 1972-1982所収)2006
9. 塚崎邦弘:【49. リンパ増殖性疾患】 3)慢性リンパ性白血病と類縁疾患. (日本臨床腫瘍学会編集:新臨床腫瘍学(がん薬物療法専門医のために), 南江堂, 東京, pp. 641-645所収)2006
10. 宮崎泰司, 塚崎邦弘, 朝長万左男:【4 血液・造血器疾患】[2] 白血病疾患(北村 聖 総編集:臨床病態学, ヌーヴェルヒロカワ, 東京, pp. 609-620所収)2006

B-d

1. 宮崎泰司:卒業してからの20年 朋百 105:60-62, 2006
2. 朝長万左男, 岩永正子:原爆被爆者における造血器腫瘍の疫学・分子疫学研究(1)骨髄異形成症候群の疫学, (2)多発性骨髄腫と類縁疾患の疫学. 平成18年度特別教育研究費 第2回広島大学・長崎大学連携融合事業カンファレンス-国際放射線被ばく者先進医療開発研究の期間連携事業-報告書pp. 46-50, 2006
3. 宮崎泰司, 本田純久:データマネージメントと病型の中央診断に関する研究(宮崎), 症例数の推計・統計解析と登録用サーバーの管理(本田). 難治性白血病に対する標準的治療法の確立に関する研究, 厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)難治性白血病に対する標準的治療法の確立に関する研究(主任研究者:大西一功)平成17年度総括・分担研究報告書 pp. 46-50, 2006
4. 朝長万左男:共同研究課題2:原爆被爆者の骨髄・免疫異常の発生に関する分子生物学的研究-長崎班総括研究報告・原爆被爆者に発症した造血器腫瘍の疫学・分子疫学的研究. (財)日本公衆衛生協会 原爆症に関する調査研究(主任研究者 田原榮一)平成17年度厚生労働省委託事業 原爆症調査研究事業報告書 pp. 46-53, 2006
5. 朝長万左男, 岩永正子:共同研究課題2:原爆被爆者の骨髄・免疫異常の発生に関する分子生物学的研究-分担研究報告書・原爆被爆者に発症した骨髄異形成症候群・多発性骨髄腫の疫学研究. (財)日本公衆衛生協会 原爆症に関する調査研究(主任研究者 田原榮一)平成17年度厚生労働省委託事業 原爆症調査研究事業報告書 pp. 68-73, 2006
6. 宮崎泰司:共同研究課題2:原爆被爆者の骨髄・免疫異常の発生に関する分子生物学的研究-分担研究報告書・原爆被爆者に発症した慢性骨髄性白血病の分子生物学的に解析に関する研究. (財)日本公衆衛生協会 原爆症に関する調査研究(主任研究者 田原榮一)平成17年度厚生労働省委託事業 原爆症調査研究事業報告書 pp. 74-77, 2006
7. 和田佳恵, 宮崎泰司:業務実績報告書(主任研究者の研究課題:難治性白血病に対する標準的治療法の確立に関する研究).平成17年度 厚生労働科学研究費補助金 小児疾患臨床研究, がん臨床研究及び循環器疾患等総合研究推進事業研究報告書, (財)長寿科学振興財団発行, 111-113, 2006
8. 朝長万左男:第55回パグウォッシュ会議 年次大会(広島)報告. 長崎平和研究 21: 31-44, 2006
9. 朝長万左男:厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究事業 難治性悪性リンパ腫の治療に関する研究 平成17年度 総括・分担研究報告書(主任研究者 飛内賢正)難治性悪性リンパ腫に対する分子標的治療薬を用いた薬物療法の研究 pp. 35-41, 2006
10. 朝長万左男:厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 特発性造血障害に関する調査研究 平成17年度 総括・分担研究報告書(主任研究者 小澤敬也)MDSの形態診断基準の確立に関する研究 pp. 31-35, 2006
11. 松田 晃, 別所雅美, 陣内逸郎, 矢ヶ崎史治, 荒関かやの, 朝長万左男, 岩永正子, 波多智子, 対馬秀樹, 境 麻里:厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 特発性造血障害に関する調査研究 平成17年度 総括・分担研究報告書(主任研究者 小澤敬也)pp. 84-85, 2006
12. 朝長万左男:医歯薬学総合研究科長就任のご挨拶. 朋百 107: 4-9, 2006
13. 直江知樹, 吉田 均, 黒川峰夫, 宮崎泰司, 大西一功, 大屋敷一馬, 横澤敏也:厚生労働省がん研究助成金による研究報告集 平成17年度 (主任研究者 直江知樹)15-4成人難治性白血病の分子生物学的特徴に基づく治療法に関する研究. pp. 132-135, 2006

14. 大津 敦, 塚崎邦弘, 中西幸浩, 西尾和人, 小澤壯治, 山本精一郎, 大野真司: 厚生労働省がん研究助成金による研究報告集 平成17年度 (主任研究者 大津 敦)17-19臨床試験登録患者検体の有効利用に関する研究. pp. 437-441, 2006
15. 堀田知光, 飛内賢正, 中田匡信, 森島泰雄, 木下朝博, 上田龍三, 山口素子, 鈴木孝世, 朝長万左男, 青儀健二郎, 井上賢一, 南 博信, 山本尚人, 藤原康弘, 増田慎三, 嘉村敏治, 吉川裕之, 笠松高弘: 厚生労働省がん研究助成金による研究報告集 平成17年度 (主任研究者 堀田知光)17指-1高感受性悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究. pp. 536-543, 2006

原著論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	合計	総計
2006	8	0	0	0	8	8	7	26	10	15	58	66

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計	B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会			シンポジウム	学会		
2006	0	3	14	17	4	0	23	27	44

原著論文総数に係る教員生産係数一覧

	欧文論文総数	教員生産係数 (欧文論文)	SCI掲載論文数	教員生産係数 (SCI掲載論文)
	論文総数		欧文論文総数	
2006	0.121	1	1	1

Impact factor 値一覧

	Impact factor	教員当たり Impact factor	論文当たり Impact factor
2006	46.624	5.828	5.828